

園田苑

風話鈴香

第112号

平成26年11月

編集・発行

社会福祉法人

阪神共同福祉会園田苑広報

〒661-0972

尼崎市小中島 1-1-18

TEL:06-6493-3731

Mail:info@sonodaen.or.jp

ホームページ

<http://www.sonodaen.com/>

私たちの目指すもの

一、地域に開かれた施設

二、入居者、家族、施設、地域のみなで作る福祉を！

三、老人と共に生きがいを見い出す生活を！

社会福祉法人阪神共同福祉会園田苑

特養3階Before



特養3階After



特養2階Before



特養2階After



新しい保育園・新しい事業を共同の取り組みとして

理事長 中村 大蔵

社会福祉法人阪神共同福祉会は、老人福祉施設園田苑（1988 年開設）だけではなく、三保育園（善法寺・南清水・浜つばめ）をも運営してきた。当法人は 1975 年に阪神共同保育会として開設した善法寺保育園にその歴史を見る。そして、今年 4 月から浜保育園が加わった。

前三保育園はゼロからのスタートであったが、浜保育園は市立保育所であったものが民間移管されたものである。それまでの建物、土地、さらに、保育所園児、その親をもそのまま引き継いだのである。

ゼロからのスタートも大変なら、急に法人が変わっての運営はもっと大変である。建物は古ぼけており、至るところにヒビ割れが目立ち雨漏りはする、さらに固定はされているとはいえ石綿素材が使用されていることも判明した。建物の大型改造もやらねばならない。その間の保育室も確保しなければならない。

名前も「所」から「園」に変わった。尼崎市はなぜか民間には「所」を使用させない。保育内容は善かれ悪しかれそれまでの体質を引きずっているだけに、「運営する側」も「運営される側」も戸惑うことの連続である。

だが、不平不満の繰り言をする前に、忘れてはならないことがある。善法寺保育園は小中島住民の対市要求署名と市長交渉で生まれた。園田苑も地域住民からの多額の寄付金を基に日の目をみた。そして、その運動は阪神医療生活協同組合から始まった。

法人の名称が阪神であり共同であるのはそのことによる。私たちの事業は、地域（住民）と一体に利用者（園児・高齢者）、その家族、職員との共同の営みである。

新しい事業（保育園・小規模多機能型介護施設）を開始するに当たって、あらためてこのことを確認したい。



NHK東日本大震災プロジェクト 「明日へ 支えあおう」（日曜 朝10時05分～ 総合テレビ）（<http://www.nhk.or.jp/ashita/support/>）が月1回放送されています。11月23日に放映された園田苑とボランティアグループ「園」も取材を受けた回を食堂で上映会しました。

野沢さんが、淡路島から届いたみかんを絞り器で1つ1つ絞って、100%みかんジュースを作って下さいました。濃くて、ほんのりすっぱくて甘い、そして太陽の味がする美味しいみかんジュースでした。



園ちゃん26歳

～（勝手に）我が母のように～



「園」のお誕生日会に参加させて頂きました。当日は、和やかな雰囲気の中、ゆったりとした会でした。誕生して26年という、本当に長い時間を園田苑にご尽力頂いていること、心より感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。なかなか真似のできることはないです。私たちがこのご恩を、地域にお返しできるよう改めて気が引き締まった所存です。

最近、園田苑でこのようなことがありました。本当にお恥ずかしい話ですが、経験のある新人介護職員が他のお年寄りがいる前なのに、大きい声で他の入居者の排泄報告をしていたのです。「こんなことも教えないといけないのか…」と、ガックリしたことがありました。

思い起こせば、「園」のボランティアさんたちと出会った頃、様々なことを教えて下さいました。私たちのお年寄りとの関わり方ひとつ、「それはお年寄りに失礼ではないの？」と教えて下さったのも「園」の皆さんです。私たちににとっては、見失いがちな「普通の視点」を「園」の皆さんは持つておられるのです。「お年寄りに対する尊敬の心」を忘れず、園田苑の職員は、「園」さんから学んだこと、育てられたことが多かったのではないのでしょうか。これは若い介護職員にとっては素晴らしい教育環境だと思います。叱咤激励を頂戴する度に、（勝手に）我が母のように愛を感じてしまいます。これからも元気な笑顔を見せてください！おめでとうございました！

併設通所介護 主任 秀石 直美



悔しい思いをそのままにしない

～新しい取り組みにバトンタッチ～

今まで4回にわたってショートステイでの取り組みと、私達が学ばせて頂いたいくつかの経験をご紹介します。自分達のケアを振り返り、より安心して在宅で、園田苑で過ごしてもらえるかを皆で考えてきました。

今まで施設の中でのケアしか考えてこなかった特養職員(特養でヘルパーをしていた時の私自身も含め)が、ショートステイを考えてくれることで、自宅へ戻るその人自身を見られるようになりました。個別ケアへの第1歩を踏み出せたと思います。

また、ショートステイご利用者さんが1階のデイサービスに来られている際には、特養の職員が気にかけてくれるようになり、セクションを超えた“園田苑ケア”ができつつあります。これはデイサービスが逆に学ばないといけない部分だなと新たな目標とし取り組む次第です。

しかし、在宅介護に寄り添うために、限界を感じることも多々ありました。



例えば認知症の方にとっては、いつも過ごし慣れた自宅やデイサービスとは異なる場所へ突然連れてこられてしまう為、ショートステイに来ること自体が慣れない環境という障害となり、不安を助長しています。より一層認知症症状を深めてしまう。帰宅要求や昼夜逆転を生み出してしまう。ショートステイが成立せず、夜にご自宅にお送りせざるを得ない悔しい結果もありました。

そのような悔しい思いをそのままにせず、どうしても安心してもらえるかを考えた時、今開設準備をしている新規事業、“小規模多機能”が生まれました。

今回でショートステイ奮闘記の連載は終了し、次回より“小規模多機能(準備)奮闘記”として戻ってまいります！新しい取り組みの目的と職員の思いを、是非紹介させてください。

→次号へ(形を変え)続く

通所介護/短期入居生活介護
生活相談員 深津 智子

園田苑でも同じような空間を ～「宅老所よりあい」へ～

11月21～23日中村理事長・深津 Wt と共に九州にある宅老所「よりあい」の見学に行ってきました。北海道にある美瑛慈光会の安倍理事長、藤見理事、園田苑が大変お世話になっている安永さんと空港で合流し初日には「宅老所よりあい」へ。2日目は田中施設長も合流し「第2よりあい」「第3よりあい」「よりあいの森カフェ」への見学をさせていただきました。

ここで「宅老所よりあい」の説明をちょっと。皆さんご存知の方もいらっしゃると思いますが…。福岡県のとある路地にあるお寺のお茶室を借りて、3人の女性が通いのサービスから始めた。その後隣の民家を借りて「宅老所」となった。約4年後「第2よりあい」そして「第3よりあい・よりあいの森カフェ」と続き、現在は特養を建設中である。



感想を頂くことがあるけれどそれとは根本的に違う。園田苑は思ったより職員がバタバタ動いていないという意味だと思う。現場で働いている職員はそれは必死に動いている。その頑張りに本当に頭が下がる思いだ。

しかし、「宅老所よりあい」というとお年寄りも職員も一緒にテーブルを囲み座っている。時間的にお茶を飲む時間だったのかもしれないがみんな座っている。そこへ私たちがお邪魔した。だからといって雰囲気が変わるわけではない。ゆったりと時間が流れている。きっと普段もこういう時間（雰囲気）が流れているのだろうと思う。とにかく言いたいことは「居心地」が良かった。「第2よりあい」「第3よりあい」も印象は同じだった。

「特養」と「宅老所」の違いはあるかもしれないが、園田苑でも同じような空間ができないだろうか？入居者にとって居心地の良い居場所があり、そこに入居者も職員もできれば地域の人も集える場所を作れればと思う。

今回、「宅老所よりあい」に見学にいき驚いたこともある。そもそも「宅老所よりあい」はお金がないところから始まっており、資金を自分達で調達している。ジャムを作っては売ったり、行商？に行ったりと挙げればきりが無い。いろいろな人に助けられ支えられている。現在、建



設中の特養の資金も募金や寄付そして本やTシャツを売りほとんどまかなったらしい。またこの特養を作るにあたって、建築・資金調達・運営部会？を立ち上げ全職員が所属している。建設中の特養をより良いものにしていく為にみんなで具体的に話し合い関わっている。また、「よりあい」ではお年寄りとしっかり向き合っていることが話を聞いていると強く感じる。

今回の見学を機にその人にとってどんな支援が必要で私に何ができるのか。よりリアルなものを追い求めていく事が出来るように努めたい。そしてどんな事でも「いい！」と思うものを真似ることから始めていきたい。



最終日。福岡から伊丹への飛行機が 30 分遅れで到着。そのまま神戸方面へ講演を聞きに行き、お昼ご飯を食べる時間もないぐらいの強行スケジュールで、美瑛慈光会の皆さんに園田苑にも寄って頂きました。

当日は皆さんが来られるとの事で厨房が料亭「濱」を開き、入居者数名と職員が参加して歓迎会を行いました。お寿司にあんこう鍋、土手煮などなどたくさんの料理が並びおいしく頂きました。

園田苑の様子を見られた後安倍理事長に声をかけられ「いいよ！雰囲気がとてもいい！」「職員の関わり方もいいよ」といって頂けたことはとても励みになりました。

特養 生活相談員 大上 茂利



変えられないもの！変えるべきもの！

～北海道美瑛町老人保健施設ほの香 安永 道生氏～



私が園田苑に通うようになっていったいどれぐらいになるのだろうか？

岡山県庁の職員の時から、途中阪神淡路大震災を挟んで中断していた時もあるが、20 年近くにはなるのだろう。この間、現在の施設長である田中さんと一緒に園田の町の中で暮らす障碍を抱えた方々のお宅にも訪問を重ねたことを思い出す。そして、その方々が在宅生活を継続することが難しくなると園田苑に入所していた。

特養本体はあの大震災の影響で傷みが大きく改修の必要性が出てきた時、1 階の浴室は檜の個浴を導入したり、2 階のデイルームなどを半個室化したりと入居者の生活を少しでも快適になるように変えてきた。

その時々、現場の職員たちは、どんなことがあっても「変えられないもの」をしっかりとケアの中心に据え、「変えなければならないもの」を見極めながら、経験の有無などには関係なく、それぞれが自分の担当するお年寄りの生活を少しでも豊かにしたいと取り組んできた。その実践の積み重ねをじっと見てきた私にとって、今回の変化は大変大きな喜びとともに、その素早い動きに対する羨望とがいきまじって、少し悔しささえ覚えた感動の瞬間であった。

どうして羨望なのか？それは園田苑のスタッフが北海道に研修に来たのが 8 月。わが施設のスタッフが同じ施設に研修に行ったのが 5 月。ここに 3 ヶ月の差があるにもかかわらず、何にも変えられないわが施設を尻目に園田苑のこの変わりよう…。

決して「変えてはならないもの」、そして「変えていかなければならないもの」。

これからもしっかり見極めながら、ケアの高みに向かって互いに進んでいこう！



家族会の方向性が見えてきた！ ～こぶし園家族会の訪問を受けて～

平成 26 年 11 月 4 日、兵庫県美方郡の特養こぶし園の家族会がボランティアの方達と施設の職員が同行され、園田苑を視察に来られ、苑の計らいで今後の私達の活動に活かすべき意見交換をさせて頂き、こぶし園家族会の現状と視察の目的等を以下の内容にて聞かせて頂きました。



(こぶし園家族会の現状)

家族会発足当初は家族の方達も若く多数参加にて多種の活動に活気があった。しかし、家族の方達が高齢となるにつれ、活動も激減し、施設敷地内の草取りを年 2 回、3 割弱の参加にて実施するのみとなり、家族会の継続が行き詰っている。

(こぶし園家族会の視察の目的)

3 年前より、他の施設を参考にさせて頂き、何とか当初の活気を取り戻そうと、今日までに 4 箇所の施設を視察させて頂きましたが残念ながら、どの施設も家族会が無く参考にはなっていません。

(今回園田苑を視察されての感想)



4 箇所の施設視察は全て施設長お一人から運営方針をお聞きするのみでありました。今日園田苑に来て、まさか家族会の方と意見交換が出来るとは思ってもなく、

発足して間もない園田苑家族会の、「何とかなるだろう」では無く、「何とかする」といった、意気込みを感じ勇気づけられ、加えて施設内の案内も家族会の方であり、生の園田苑を観させて頂き感激いたしました。初めての体験で驚きがあり、やっと視察の成果を実感しました。そし



て中村理事長が人を看る交わりに関する持論を話され、後を家族会にお任せし退席された事に対し、この事こそが開けた施設なんだと再認識させてもらい、本当にありがとうございました。

以上がこぶし園の方々から感想話が出されました。

(家族会会長としての感想)

一つ、家族会、ボランティアの方達、そして施設の職員が共同となって来られた事、そして園田苑と交流があるという事から、こぶし園も他に類の無い開かれた施設であることを実感いたしました。

二つ、現状を打破する為の行動を三者が共に



起こしていることに刺激を受けました。

三つ、私達家族にとって大切な家族を預け安心出来る施設とは？を解らせて頂きました。

私は、こぶし園家族会と意見交換し、園田苑があつて私達家族がある、逆に私達家族が在って園田苑がある、ということを確認させられ、私達家族会の方向性がみえた気がしました。

園田苑の家族会は家族の皆様の為に在るべきとした観点から、家族の皆様の協力無くして前に進む事は難渋です。今後は出来る限り皆様の都合に合わせ、家族会役員にて調整し、数回に分けた集会計画とし皆様と直接顔を合わせ御意見を頂き、その事を活かす事によって笑いが続く家族会に致したく、役員の私達にどうか力を貸してください、お願い致します。

特養 家族会会長 藤原 孝次

四世代で初参加

～車中で話がはずむはずむ～

11月23日、デイサービス家族会主催で、勝尾寺まで紅葉狩りに行きました。9月より併設デイサービスに配属となった私は、今回初めて家族会の外出同行となりましたが、併設デイサービスでは勝尾寺への紅葉狩りは毎年の恒例行事となっています。

今回、併設デイサービスより4家族、認知症対応型デイサービスより4家族のご参加でした。下宮さんは今回初めての参加で、娘さん、お孫さん、曾孫さんと4世代で参加して下さいました。私は深津W rの車に乗りました。車中ではご家族の方との話がはずみ、新御堂筋線に入ると、車窓から目に飛び込んできたのは見事なイチョウの葉の色づき！紅葉を見る前に一同大感動、より一層話に花が咲きました。

中井さんの奥様が若い頃、実家では銀杏を取り出す為に土に埋めて実を腐らせており、手も荒れないし臭くない、という豆知識から口火を切ってくださり、お二人の出会いからデートまで、ワイドショー並みのインタビューとなり大盛り上がりでした。お二人が勤めておられたのが千里とのことで、道中の新御堂筋から見る景色は色々な思い出をよみがえらせてくれたようです。

一方、出発時からずっと寝ておられた平田さんは、皆の盛り上がる声で起きられると、もくもくと街路樹を数えられ、皆で街路樹数えが始まりました。奥さまはその横でニコニコとご主人を見ておられました。

今回初めて家族会の行事に同行させていただきましたが、ご家族の愛情で満ち溢れていることを実感しました。デイサービスの中だけでなく、このような行事から感じられるものが沢山あることを学びました。ご参加いただいた皆様、お疲れ様でした！ありがとうございました。

デイサービス 藤中 京子



中井さんは服にいっぱい紅葉をつけてブローチ代わりに。



帰りに回転寿司に寄りお昼ご飯。1時間半も滞在し楽しみました。山中さんはお嫁さんと参加して下さいました。



下宮さんはティッシュもお箸で取ります！(笑)。寝たきりだった下宮さんがこんなに生き生き外出されて、感動です！

利用者の気持ちになってみる ～排泄ケアの原点を確認する～

11月12日(水)浜田きよ子講師による排泄ケアの研修を受講し、21日(金)ホームヘルプ会議で発表をしました。

研修の時と同じように始めにヘルパーにもリハビリパンツと尿取りパットを大小1枚ずつつけてはいてもらいました。普段からよく目にしているパンツやパットですが、実際にはいてみると足が閉じにくくなり、長時間はくのもつらいものだと思います。ヘルパーからも「こんな感じになるんや」とか「足とじへんね」と色々な意見が出ました。

失禁や失便を防ぐためにパットを厚くあてていけば良いのかと思っていたこともありましたが、間違いだったのだと思います。その人の排泄習慣や生活習慣にあわせてパットやパンツを選ぶことが必要です。

便秘の原因の一つに薬の副作用があること、排便コントロールをするには食事や水分摂取の状態やトイレに座ることなどの生活環境を整えるだけでなく、既往歴や服薬の状況も知ることが必要なのだと思います。

今回の研修を受けて会議で皆で勉強したことを排泄で困っている利用者やご家族がおられた時に適切なアドバイスができるヘルパーになりたいと思いました。 ホームヘルプ 岡田 実幸



安心して暮らせるまちづくり ～園田地区福祉フェスタ～

私は当日受付をしていましたが、通りすがりに立ち寄られた人、事前にあることを知って来てくださった人、友人の連絡で駆け付けた人などたくさんの人が足を運んでくださいました。

福祉用具は福祉に関わる仕事をしていたら見慣れてくるものかもしれませんが、一般の人々にとっては目にする機会は少ないと思います。介護が必要になった時、住み慣れた地域で生活し続けるためには福祉用具の存在は大きいと思います。だからこそ、このようなイベントで少しでも触れることが出来たのは非常に良かったのではないかと思います。

配食コーナーには、たくさんの試食品があり、地域の人たちと一緒においしく食べながら楽しい雰囲気の中で業者さんによる配食サービスの説明を聞かせていただきました。見た目は普通食と同じでも口に運ぶとすぐに溶け、噛む力が弱くなった人でもおいしく食べることのできる食事もありました。配食サービスを利用していない人たちにとってはまずこのようなサービスがありますという情報を発信することが大切だなと学びました。

園田地域福祉フェスタは地域の人たちにとって介護が必要になっても住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくための支援がたくさんあることを知ってもらうことができた行事だと思いました。

楽しく参加させていただきありがとうございました。

(大阪人間科学大学 実習生 余田 あずみ)



地域の見守り推進委員さんの交流会もあり、活発な意見交換、日頃の活動報告など有意義な時間でした

まさに異文化交流？！

～小園中学校トライやるウィーク～



11月10日から数日間、小園中学校の学生4名がトライやるウィークで園田苑にて実習しました。今回は皆男性！初日、デイサービスにて実習をした学生さんに、自己紹介をしてもらい、趣味や得意な教科等を聞きました。

「趣味は？」「落語と狂言です！」一同ハテナ？のあとに「すごい趣味やね～」と大拍手。狂言は習っており、落語やなつかしい童謡や歌謡曲などを歌うのが趣味だという彼に、早速利用者様の前で披露してもらいました。

更にその後のレクリエーションの時間には、デイサービス恒例の紅白旗揚げをしたのですが、レクリエーション担当の桐谷ヘルパーが、「君、落語と狂言で旗揚げの声掛けしてくれない？」と無理難題を要求(笑)。そしてそれを、易々としてしまう学生さん。一同大爆笑でした。

午後からは、歌のお好きな河合くにさんと一緒に懐かしい歌をうたいあげ、すぐにでもデイサービスで働いていただきたいくらいでした(笑)

中にはお年寄りと何を話していいかわからず、ずっと下を向いている学生もいましたが、彼らにとって今のご利用者さん達はひいおばあちゃんやひいおじいちゃんのような歳の差です。この異文化交流(!?)は、とても新鮮なものだったと思います。彼らには、理事長のいつも言われる、“人と関わって人になる”を少しでも感じてもらえていたらいいなと思っています。

通所介護 生活相談員 深津 智子

ケイちゃんと一緒に祝い♪ ～仲山さんお誕生日会～



11月16日は仲山ケイ子さんのご主人のお誕生日でした。

ご主人は週2回 苑に来て下さり、ケイ子さんと一緒に昼食を召し上がられているのですが、職員との会話の中で誕生日が近い事が発覚！お誕生日をお祝いしたい！祝わせて！と無理やり？ご招待決定！何が食べたいかを伺うと、「スープカレー」なんだかおしゃれなご希望(笑)をいただきメニュー決定！

当日は「なんか味、足らん」と近くにいる職員を全員つかまえ(笑)、味指導を仰ぎながらスープカレーが完成♪厨房さんにはケーキのスポンジを焼いてもらい、職員で飾り付けケーキも準備万端♪

しかし、昼食の時間になってもご主人現れず……。電話してみると、まさか本当にお誕生日会をするとは思われてなかった様子で「お昼ご飯食べちゃった」と……。しまった！！どうする？と焦りましたが、昼過ぎに来ていただける事になりました。職員一同、良かったぁ～と一安心。

その日は、昼から学生のボランティアさん達が来て下さっており、彼女達も巻きこみ(笑)お誕生日会開催！ご主人が来苑されると、みんなで「ハッピーバースディ～♪」と歌い、ケーキを食べて楽しい時間を過ごしました。

ご主人は「こんな初めてや」と、とても喜んで下さりケイ子さんの横でとてもニコニコされていました。ケイ子さんも穏やかな表情でご主人を見つめておられました。

入居者さんだけではなく、家族様ともこうした関わりを持てる事がとても嬉しいと思えた日となりました。ちなみに、スープカレーは家に持って帰っていただきました(笑)「おいしかったよ」と言って下さり安心しました(笑)

お父ちゃん、来年もお誕生日会しましょうね！いや、しますよ！(笑) 特養ヘルパー 上野 美紀

楽しいことがあるから生きていける ～デザートはべつばら～



11月26日、2階入居者の光本さんの野沢さん、山根ヘルパーと一緒に立花にある焼肉屋「たちばな」にランチに行きました。

毎日ファンルーム（シリコン輪ゴムのアクセサリーキット）でアクセサリーを作ってお下さっている2人に施設長からのご褒美です。最初は野沢さんが作っておられましたが途中から光本さんも作って下さるようになりました。いつの間にか2人の日課になっています。野沢さんは継続してすることが出来て楽しいと言いながら作っておられます。

苑を屋前に出発しました。車中では、何を食べようか!?と会話しながら向かいました。「たちばな」は、光本さんが昔近所に住んでいて、よく行っていたお店だそうです。周辺は田んぼだらけだったそうですが、今やマンションなどずいぶん様変わりしたとのこと。

店に着き光本さんはテールスープ定食、野沢さんは焼肉定食を注文されました。2人とも「とても幸せ」という良い表情をされていて、こちらまで幸せな気分になりました。おいしい、おいしいなア幸せの連発です。お腹一杯になりましたが、このまま真っ直ぐ苑に帰るような女子5人ではありませんでした（笑）

カフェが待っています。デザートは“べつばら”なのです。野沢さんはコーヒーとクリームが乗ったスフレケーキをペロリと完食。光本さんはコーヒー。私たちもスフレと飲み物を注文しました。



光本さんは、「生きている間には辛いこと、苦しいこと、イヤなことがあるけれど今日みたいな幸せな楽しい時もあるので生きていけるんやで」と話され、まさにそうだと思います。

今日は私にとってもハッピーな1日でした。皆でまた行こうねと話しながら苑に向かって帰りました。光本さんが苑に着くと、「3時間くらいの外出だったのに、やっぱり我が家は懐かしいしほっとする」とのこと。

当初は、ファンルームのご褒美は、お茶だけしに行こうという計画でしたが、いつの間にやら焼肉に。色々なファンルームのアクセサリーや、クリスマスの飾りなど力作が玄関に飾ってありますので、売り上げにご協力をよろしくお願い致します。

特養 宮田 龍子

～園田苑からのお知らせ～

12月18日(木)介護者教室:高齢者擬似体験セットを着用し、施設内外を歩き、高齢者が抱える問題を体験します。後半30分は茶話会をします。14時～16時園田苑2階食堂にて。

12月20日(土)入居者忘年会:毎年恒例の、入居者忘年会!歌合戦を皆さんと楽しみ今年一年を振り返りましょう!

12月27日(土)もちつき大会:年の瀬迫る寒い一日、威勢の良い掛け声と共に杵と臼でもちつきをしましょう!

編集後記

最新の布団乾燥機は、敷と掛の間にノズルを差し込むだけでほかほか布団ができるのか。この冬、我が家にお招きしたい。

(きりん)

レクの研修に行った職員が実施したじゃんけんゲーム。レクリエーション後、職員達がキラキラ目を輝かせて一言。

「これは認知症予防とかそんななんでもいいです。おもいやりじゃんけんということが分かりました!」

相手の状態に合わせて、思いやりを持ってじゃんけんをしてあげる、お年寄りをみて感動していました。

優しさを感じられる皆と働けて、ほんとうにうれしいなと思いました。

(酒浴女)

今年もこたつの季節です。さっそくきょうだい3人こたつに入って寝ています?!

あまり部屋から出てこなかった長男も寒さには負けるのかこたつの魔力に引き寄せられてみんなど過ごしています。

省エネもかねて暖房器具は1つしか出さずにおこうと思うケチな母でした。

(金太郎)

安永さんの原稿に、思わず鼻水をすすってしまった。だけど、今はまだ、「真似」にしすぎない。

本当に『介護している感がない』施設にするには、まだまだ先は長い。

介護を論ずる前に生活を見よう。冬には冬の、夏には夏の環境を作ることできないで利用者主体などとはぎくなくね。

(野の花)